

乳幼児期のかみつき ひっかきについて

子どもの自我が生まれてくるとかみつきやひっかきが始まります。「それぼくの」「それ欲しいな」「いやだ」こういった気持ちがあっても言葉になりません。だからかんでしまったり、ひっかいたりします。又、目の前に出てきた誰かの顔や指に手が出ることもあります。これは、成長 発達のひとつの特徴です。子どもたちがみんなかみつきやひっかきをするわけではありませんが、かみつきやひっかきが終わらないこともあります。

誰かを傷つけようという気持ちは子どもに全くありません。反対に「〇〇ちゃん好き」「あそぼう」といった他者に対する興味がかみつきやひっかきのような行動として出ることがあります。私たち保育者は子どもたちが言葉で気持ちを表現できるように働きかけています。お友だちがおもちゃを取ろうとし始めたら「使いたいのかな」「“貸して” っていうんだよ」と伝えます。お友だちの顔の前に手を出したら「どうしたの」と声を掛けて子どもの気持ちを汲み取るよう努力します。けれども、時として私たちの声掛けや働きが間に合わないこともあります。出来る限り止めて気持ちを受け止め言葉にするよう伝えたいと思います。

かみつきやひっかき起きた時は適切に処置し保護者の皆様にもお伝えしていきます。保護者の皆様にご理解していただきたいのは、かみつきやひっかきは「やった」「やられた」といった言葉で表現するものでなく、かみついた子どもも「やろうと思ってした」とは言えないと思うのです。自分が遊んでいる玩具を引っ張られて「いやだ」という気持ちになるのは幼児さんも同じです。ただ乳児さんの場合は言葉よりもずっと先に手や口が出てしまうのです。

又、生え始めた歯がかゆくてかむこともあります。

これから先、ご家庭の様子をお聞きしながら園での様子をお伝えし、連携を密にしていきたいと思います。保護者の皆様とうたさくこども園の二人三脚で子ども一人一人の成長、そして子どもたちがお互いに関わり合いながら育っていく姿をしっかりと見守っていきたいです。ご理解の程、よろしくお願い致します。

